



阿児さん

ステークホルダーについて、博物館も同じですが、来館の方々だけ、イベントに来てくださった方だけという意識だったのが、そうではないというのが見えました。そして、見えたことによってさらにステークホルダーの方々が増えていき、今までやってきた活動に空白地帯があったのではないかと、いや、空白ではなかった！と気づくという、良い展開でした。



野口さん

私たちは皆、名前に縛られがちであるということです。例えば『図書館』というと、本を読むところ、借りるところ。『博物館』は標本や資料があるところ。それをもう一度皆で見直したのがすごく大きかったと思います。『市役所』『図書館』『博物館』『公民館』と切り分けてそれぞれに来る人やサービスを限定してしまうと、皆が窮屈になってしまいます。それを繋げていくことで、施設やサービスを維持したままで市民への便益がもっと膨らむ方向に行くというのが見えました。



鳥谷さん

普通、図書館は市民との繋がりという目線でしかあまり見ないと思いますが、外の人と繋がってきちんと価値を生み出していることが分かりました。そう考えると、飛騨市図書館が外部の人々、観光客との接点を持っているのですから、その接点をもっと活用していくことができるかもしれません。今回のワークの中で見えてきたのは、図書館は用事がなくても来れるのが特徴であり、その特徴を強みとして使えるのではないかとということです。

図書館のスタッフが非常に多くのことをやっていることは分かりましたが、一方で、図書館のスタッフが全てをやろうとしなくても良いのではないかとも思いました。図書館が持っている様々な人たちとの接点は既にありますし、これからもっと増えるかもしれません。だからこそ、スタッフだけでやるのではなく、その場を使ってもらうために外部から入ってきてもらい、図書館という場を使って新たな繋がりを作ってもらうような活動をしてもらっても良いのではないのでしょうか。

社会にある既存の様々な人や場所といったリソースを新しく組み合わせ、人々の生活を豊かにすることを社会イノベーションと呼びます。まさに、特別な新しいものを作っているわけではないけれど、今まで繋がっていなかったものが繋がることで価値を生み出すという、社会イノベーションの好例に飛騨市図書館もなるのではと思っています。また、物理的な図書館という場から逸脱し、物理的な空間でも、オンライン上でも、両方で飛騨市全体と繋がっていく。そんな『ひだ万雑プラットフォーム』になっていくような可能性を感じています。

9/7
10:00～

ワークショップの
おさそい

イベント
詳細



参加申込フォーム
※託児の申込は8/26まで



阿児さん

9月、みなさんからの種がいっぱい蒔かれて、11月にどんな芽が出ているのか楽しみです。11月には飛騨にお伺いしますので、ワイワイと熱く語れればと思います。よろしくお願いします。



野口さん

次回のワークショップも含めて、図書館に限らず、参加した人が自分ごととして『こういう見方をしたらこういう展開があるんだ』というところまで見通せると、それもまた図書館の新しい役割に繋がるのではないかと考えています。



鳥谷さん

今すでにいろんなアイデア浮かんでいて、ここで発言したりコメントしたい方もいるかもしれませんが、そのフラストレーションをぜひ次の市民参加のワークショップで発散してください！



西倉副館長

むしろ「図書館でこんなことやっていいのかな」ということの方が大切です。図書館という枠にとらわれずに、自分のやりたいこと、好きなことを教えてください！みなさんのアイデアで新しい運営方針ができれば、日本の公共図書館運営の新しいモデルになります。皆さんでワクワクしながら図書館を育てていきたいです。